

●太陽光発電「オフサイトPPA事業」

2024年度、経済産業省の補助事業「需要家主導型太陽光発電導入支援事業」を活用して、長野県内に22ヶ所（合計出力2MW）の太陽光発電所の設置を進めています。

発電した電気は、飯田まちづくり電力（株）を介して、飯田市内に事業所をもつ電機メーカーへ供給されます。

この補助事業によるオフサイトPPA事業は、2022年度に続き2回目。固定価格買取制度（FIT）に頼らない発電設備の導入、再エネ電気の供給を後押しする事業です。



完成した太陽光発電所

●野底川小水力発電所のメンテナンス

野底川小水力発電所（飯田市上郷）は、営業運転開始から1年が経過しました。運転状況は24時間遠隔監視を行い、メンテナンスを続けています。

毎月1回、発電所の設計を委託した三峰川電力（株）が定期点検を行います。発電所では発電機の電圧や電流、周波数等の数値や、制御システム設定などを確認。取水設備では、除塵機やコンベアの動作、取水ゲートの外観状況などをチェックします。弊社初の水力発電所として、安定した運転が続けられるように管理していきます。



三峰川電力による定期点検

●環境学習事業（野底川小水力発電所、飯田自然エネルギー大学）

●野底川小水力発電所の学習会・見学会

野底川小水力発電所の共同事業者である上郷まちづくり委員会が、発電事業の寄付金を活用して、上郷小学校5年生（116人）を対象に環境学習を提供しています。2年目となる今年は、10月に学習会を2回行って、野底山の自然環境や地球温暖化の現状を学びました。

11月、発電所の現地見学会として、取水設備や水車発電機を見学。地元の水資源を活かした水力発電について学習しました。子どもたちにとって、地域や再生可能エネルギーに関心を持つ機会になれば嬉しいです。



●飯田自然エネルギー大学（第5期）がスタート

地域エネルギー事業の人材育成を目指す飯田自然エネルギー大学は、10月から第5期が始まりました。長野県内をはじめ全国から17人が受講。会場受講とオンラインを組み合わせて、講義や事例研究などに取り組む全10回のプログラムです。

第1回は全員が会場に集まり、入学式と諸富徹学長（京都大学大学院経済学研究科教授）や再エネ・新電力に取り組む事業者の講義、実地研修を行いました。



おひさまエッセイ

2004年12月に生まれたおひさま進歩エネルギー株式会社（発足時は有限会社）は、社員・役員のみなさん、出資者のみなさん、地球温暖化防止を目指す仲間のみなさん、持続可能な地域づくりを行うみなさん、地域のみなさんなど多くの方々に支えられ、20周年を迎えることができました。ありがとうございます。

10周年の2014年以後、新たな事業に取り組んできました。地域公共再生可能エネルギー活用事業、ソーラーシェアリング事業、オフサイトPPA事業、小水力発電事業、自治体向けのコンサルティング事業、飯田自然エネルギー大学などの環境学習事業です。また、電力小売事業を飯田まちづくり電力として実現することもできました。

どれも、今後10年の基礎となる事業です。新たな事業を実施するなかで、志を共にする新たな仲間も生まれてきました。

この間、第二種金融商品取引業を廃業しなければならないという苦しい時期もあり、多くの方にご心配をおかけしましたが、社員一同一致団結して乗り越え、発展することができました。

これからも新たな気持ちをもって、2050年ゼロカーボンと持続可能な地域の実現のため、さらなる飛躍を目指します。

おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役 菅沼 利和



〒395-0802 長野県飯田市鼎下茶屋2242-2（飯田商工会議所鼎支所1階）
TEL 0265-56-3711、FAX 0265-56-3712
メール info@ohisama-energy.co.jp HP http://ohisama-energy.co.jp/



長野県SDGs推進企業

おひさま通信は、おひさま進歩エネルギー及びグループ会社の実施事業をご紹介する不定期発行冊子です

おひさま進歩エネルギー創立20周年 特集号

おひさま進歩エネルギー（株）は2024年12月、創立20周年を迎えました。また関連会社の飯田まちづくり電力（株）は、2024年で供給開始から5周年となります。12月5日、記念事業「おひさまシンポジウム～地域エネルギーの課題と可能性」を飯田市民館で開催しました。翌日は記念式典を行い、これまで会社を支えて頂いた方々へ感謝を伝えて、20周年・5周年の節目を祝いました。

●おひさまシンポジウム「地域エネルギーの課題と可能性」

おひさまシンポジウムは、記念講演会と2つのディスカッションを行って、おひさま発電所の20年の歩みをふり振り返りながら、地域エネルギー事業の未来への課題と可能性について議論を深めていきました。

講演会講師は、おひさま進歩社事業や飯田市のエネルギー自治について研究・分析が続けられてきた諸富徹先生（京都大学大学院経済学研究科教授）。「地域エネルギー事業の課題、持続可能な地域づくりに果たす役割」をテーマに講演いただきました。おひさま進歩社の事業展開を通じて、地域内で人材や知識が育ち、地域金融機関と連携した資金調達など、人的資本と社会関係資本が蓄積されたことが重要と指摘されました。今後の展望として、ドイツでインフラサービスを提供している公益事業体「シュタットベルケ」の日本版といえる滋賀県湖南市や鳥取県米子市の事業例を紹介。エネルギー事業で稼ぎ、他事業へ再投資する「まちづくりプラットフォーム企業」として発展できると呼びかけました。

次に「地域脱炭素に向けた再エネ事業と人づくり」をテーマにディスカッションを開催。営農型太陽光発電事業を展開する東光弘氏（市民エネルギーちば(株)代表取締役）、地域エネルギー事業や大学設立に取り組む井上博成氏（飛騨高山小水力発電(株)代表取締役）、交通事業の脱炭素化に先進的に取り組む鈴木佳史氏（南信州広域タクシー(有)代表取締役）、菅沼利和（おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役）が登壇して、事業を通じた人や地域の繋がり、協力者の重要性について語り合いました。

続いてのディスカッションは特定NPO法人気候ネットワーク（京都市）が主催して、脱炭素地域づくりで求められている「中間支援組織」の必要性、役割について議論を深めました。中間支援は自治体の気候エネルギー政策を支援する組織や活動のことで、長野県内の事例報告と、今後の支援組織立上げに向けて関係者が整理した論点が示されました。シンポジウムについて、詳しくはおひさま進歩社ホームページで紹介します。

●おひさま進歩創立20周年、飯田まちづくり電力創業5周年記念式典

12月6日、おひさま進歩エネルギー（株）創立20周年、飯田まちづくり電力（株）創業5周年の記念式典を飯田市内で開催しました。創業時から応援いただいた事業者や関係者、発電事業でお世話になった地域の方々をゲストにお迎えしました。



記念式典の様子

おひさま進歩社の菅沼代表からは、発電事業やおひさまファン、コンサルティング等の現状を報告しながら「FIT制度の波に乗りながらも、事業を外に大きく広げることではなく、飯田市や周辺地域に軸を置いて持続可能な地域づくりの一翼を担おうと活動してきた」と、多くの方々の協力や支援に感謝を伝えました。式典では、ゲスト11人から事業の思い出をお話いただくメッセージタイムがあり、おひさま進歩や飯田まちづくり電力を支えてくださる方々の熱い想いをお聞きする貴重な機会となりました。

多くの皆さまに支えられて迎えた20周年と5周年。地域に根差したエネルギー会社として、これからも、気候変動を抑えて持続可能な地域をつくるため、CO2削減事業に取り組んでいきます。



おひさまシンポジウムを開催



諸富徹先生の記念講演会



中間支援組織を考えるディスカッション

地域と一緒に作る太陽光発電 -20年の歩み-

長野県南部に位置する飯田市は年間を通じて晴れた日が多く、日照条件に恵まれています。

2005年、公共施設や企業、住宅の屋根に市民出資を活用してパネルを設置する「屋根貸し事業」を始めました。

太陽光発電とともに歩んで20年。法制度の変化に対応しながら、発電所の保守管理の実績を積んできました。これからも地域の皆さまや企業、行政と協力しながら、おひさまの恵みを生かす発電事業に取り組みます。



●太陽光発電所数と設備容量

いま、おひさま発電所は長野県南部を中心に合計404ヶ所（設備容量11MW）まで増えました。発電所数、設備容量の歩みを見ると、民間施設の屋根へ事業を拡大した時期（2006年～）、住宅へのパネル設置を始めた時期（2009年～）に小規模な施設が急増し、2012年以降はFITの後押しから1ヶ所あたりの設備容量が大きな施設が増えてきたことが分かります。

創業時から取り組み続けているのが太陽光発電です。地球温暖化を防止するため、市民出資「おひさまファンド」で全国の皆さんから出資頂いた「意思あるお金」を活用して、まずは飯田市内の保育園や公民館など、地域の皆さんの身近にある公共施設の屋根をお借りしてパネルを設置しました。

その後、飯田市外の長野県南部へ設置エリアを広げながら、事業所、個人住宅の屋根へと事業を展開。FIT導入以降は、大規模な事業所や学校の広い屋根をお借りして、分散型メガソーラーを実現することができました。これまでに設置した太陽光発電所は、長野県南部を中心に合計404ヶ所（設置容量11MW）となりました。

2004年度に募集した「南信州おひさまファンド」は、日本で初めて太陽光発電普及を目的とした市民出資です。出資者476名から、2億150万円の出資金をお預かりしてパネルを設置。2020年に当初の計画通りに全額の分配が完了しています。

おひさまファンドは、事業開発のタイミングに合わせて、これまで12回にわたり募集しました。出資者は延べ3,031名、総額22億9,830万円の出資金をお預かりして事業を行っています。

太陽光発電事業とともに歩んだ20年。地域に根差した太陽光発電事業のパイオニアとして、これからも丁寧に発電所を見守り、安定した運転に努めていきます。

回数	募集年度	ファンド名	募集実績額	実施事業
1	2004～2005年度	南信州おひさまファンド	2億150万円	太陽光発電所 37ヶ所 設備容量 205kw
2	2007年度	温暖化防止おひさまファンド	4億3,430万円	太陽光発電所 92ヶ所 設備容量 771kw
3	2009年度	おひさまファンド2009	7,520万円	太陽光発電所 32ヶ所 設備容量 300kw
4	2010年度	信州・結いの国おひさまファンド	4,790万円	太陽光発電所 22ヶ所 設備容量 73kw
5	2011年度	信州・結いの国おひさまファンドII	8,100万円	太陽光発電所 43ヶ所 設備容量 166kw
6	2012年度	地域MEGAおひさまファンド	3億3,590万円	太陽光発電所 34ヶ所 設備容量 1,073kw
7	2013年度	おひさまファンド7	3億2,790万円	太陽光発電所 20ヶ所 設備容量 982kw
8	2014年度	信濃の国おひさまファンド	1億2,190万円	太陽光発電所 30ヶ所 設備容量 747kw
9	2015年度	みんなとおひさまファンド	2億8,970万円	太陽光発電所 14ヶ所 設備容量 2,332kw
10	2016年度	テントウムシおひさまファンド	1億2,300万円	太陽光発電所 7ヶ所 設備容量 765kw
11	2017年度	11おひさまファンド	1億1,000万円	太陽光発電所 10ヶ所 設備容量 552kw
12	2021年度	野底川水力おひさまファンド	1億5,000万円	小水力発電所 1ヶ所 設備容量 340kw

ファンド募集実績（1号～12号）
「おひさまファンド」の募集実績。出資金をもとに太陽光発電342ヶ所、小水力発電1ヶ所が誕生しました
※実施事業は発電所設置のほか、省エネ設備導入事業、バイオマス熱利用事業等も実施

■20周年企画「LED交換プレゼント」

創立20周年企画として、地域の皆さまへ日頃の感謝を込めて「白熱球を探せ!!LED交換プレゼント」を開催しました。自宅にある白熱球または電球形蛍光灯いずれか1個お持ち頂くと、LED電球1個プレゼントするというものです。11月、飯田市内で開催された「南信州環境メッセ2024」で交換プレゼントを行いました。

LED電球は2種類の口金サイズを用意して、お持ち頂いた電球と同型で交換。LED交換の省エネ効果が紹介された冊子もお渡しして、家庭の省エネを呼び掛けました。



「南信州環境メッセ」ブースの様子

■20周年記念誌を発行しました

11月、おひさま進歩エネルギー20周年記念誌「まちをつくる。あたらしい緑のエネルギー」が完成して、地域イベントやおひさまシンポジウム等で配布を始めました。

会社の事業展開をまとめた20年年表や太陽光発電事業の歩みのほか、小水力発電や設備管理、コンサルティング、市民出資環境学習など、いま取り組んでいる事業を掲載。一緒に事業に取り組んでいる地域の皆さんや地元企業、自治体関係者、担当社員のメッセージも掲載しています。



20周年記念誌

PDF版はこちらから

■ただいま進行中「新ビジョンづくり」

おひさま進歩エネルギーの新しい企業ビジョンをつくるため、10月から社内ワークショップがスタートしました。

「地域に根差した、地域に必要とされる再エネ会社であり続けるために、10年後（2035年）の私たちの未来の姿を明らかにする」をテーマに、「自然」「経済」「社会」「ウェルビーイング」という4つのキーワードごとグループに分かれて検討が進められています。

4つのキーワードを持続可能性を考える上での羅針盤として、会社がこれから取り組むべきことや、取り組みの達成度を計る指標づくりを全4回のワークショップで考えていきます。

11月に開催した第2回ワークショップでは、4つのキーワードごとに影響を及ぼす課題を考えて、グラフなどの指標に変換していきました。このうち「社会」では課題として人口減少、地域コミュニティの希薄化などが課題として挙げられて、事業を通じてどのような貢献ができるかを考えて指標化しました。

新しいビジョンがまとまるのは、来年春。新ビジョンに合わせて、会社パンフレットなど広報物もリニューアル予定です。



ビジョンづくりワークショップの様子